

PP1 肺サルコイドーシスの気管支肺胞洗浄液における Apolipoprotein A-I の解析

○貫井 義久

東京医科歯科大学 呼吸器内科

【目的】気管支肺胞洗浄液 (BALF) を用いて肺サルコイドーシス (肺サ症) の臨床ステージに関わる蛋白を明らかにする。

【方法】当院で肺サ症と診断された13例 (StageI 8例、StageIV 5例) について、BALF を用いて2次元電気泳動、発現量に差を認めた spot について質量分析により同定した。

【結果】StageI において有意に発現が高い spot は、apolipoprotein A-I (Apo A-I) fragment、complement C3、calcyphosin、surfactant protein A、fibrinogen gamma chain であった。一方、StageIV において有意に発現が高い spot は認めなかった。BALF 中の Apo A-I について ELISA を用いて測定したところ、

StageI が IV と比べ有意に高値であり、また StageI において、BALF リンパ球比率と正の相関を認めた。さらに StageI を肺外病変に対する全身性ステロイド薬使用群と非使用群に分けたところ、使用群において有意に BALF の Apo A-I が高値であった。

【結論】肺サ症の StageI と StageIV において発現量の異なる蛋白が明らかにされた。また StageI において Apo A-I が疾患活動性のマーカーと成り得る可能性が示唆された。

PP2 肺癌術後再発との鑑別に苦慮した胸膜サルコイドーシスの1例

○山末 まり、安東 優、松本 紘幸、吉川 裕喜、鳥羽 聡史、梅木 健二、門田 淳一

大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座

症例は70歳女性。201X-4年に原発性肺腺癌 (cT1aN0M0; stage IA) で、右下葉切除術を施行された (pT1a (ly0, v0) N0M0; stage IA)。201X年7月CTで縦隔・肺門リンパ節腫大と肺内多発結節、術後の残存胸水の増加を認めた。肺癌の術後再発が疑われたが、病理学的病期からはその可能性が低いことや、均一な両側肺門・縦隔リンパ節腫大、結節がリンパ行性の分布を認めるなどの画像所見から、リンパ増殖性疾患の可能性も考えられた。超音波気管支内視鏡補助下に縦隔リンパ節の穿刺吸引生検を施行し、非乾酪性類上皮肉芽腫が確認され、サルコイドーシスと診断された。しかし、その後も右胸水は増加し、癌性胸膜炎の

可能性が否定できず、10月に胸膜生検を施行した。非乾酪性類上皮肉芽腫を認め、胸膜サルコイドーシスと診断された。胸膜サルコイドーシスはサルコイドーシスの中では稀な病型で、本症例では、加えて肺癌術後であったことから癌性胸膜炎との鑑別に苦慮した。鑑別点などについて多少の文献的考察を交えて報告する。

PP3 キノコ栽培者に発症した過敏性肺炎の4例

○力丸 真美、谷野 功典、福原 敦朗、美佐 健一、佐藤 佑樹、斉藤 和義、斉藤 香恵、福原 奈緒子、二階堂 雄文、植松 学、鈴木 康仁、東川 隆一、菊地 正美、佐藤 俊、斉藤 純平、横内 浩、金沢 賢也、棟方 充

福島県立医科大学 医学部 呼吸器内科学講座

キノコ栽培者ではキノコ孢子自身または真菌などを抗原として過敏性肺炎を発症することがある。症例1は53歳女性。シイタケ栽培従事中、発熱、咳嗽、喀痰、呼吸困難が出現し当科受診。両肺野スリガラス陰影、BAL液のリンパ球増多、TBLBでの非乾酪性肉芽腫とシイタケ抽出液のLST陽性からシイタケ栽培による過敏性肺炎と診断。症例2は48歳男性。毎年ナメコ栽培時期に咳嗽、発熱が出現していた。胸部異常陰影を指摘され当科受診。両肺野のスリガラス陰影と小結節影、BAL液のリンパ球増多とTBLBで非乾酪性肉芽腫あり。ナメコ抽出液のLSTも陽性

でナメコ栽培による過敏性肺炎と診断。症例3は63歳女性。マイタケ栽培中、咳嗽、喀痰を自覚。胸部異常陰影を認め当科受診。両肺野のスリガラス陰影と小粒状影とBAL液のリンパ球増多あり。マイタケ栽培時期の自覚症状と胸部陰影の増悪あり、マイタケ栽培による過敏性肺炎と診断。症例4は61歳女性。ヒラタケを栽培中、咳嗽を自覚。胸部異常陰影あり当科受診。両肺野のconsolidationとBAL液の好中球増多あり。ヒラタケ栽培時期に自覚症状と陰影の増悪あり、ヒラタケ栽培による過敏性肺炎と診断。考察をまじえ報告する。